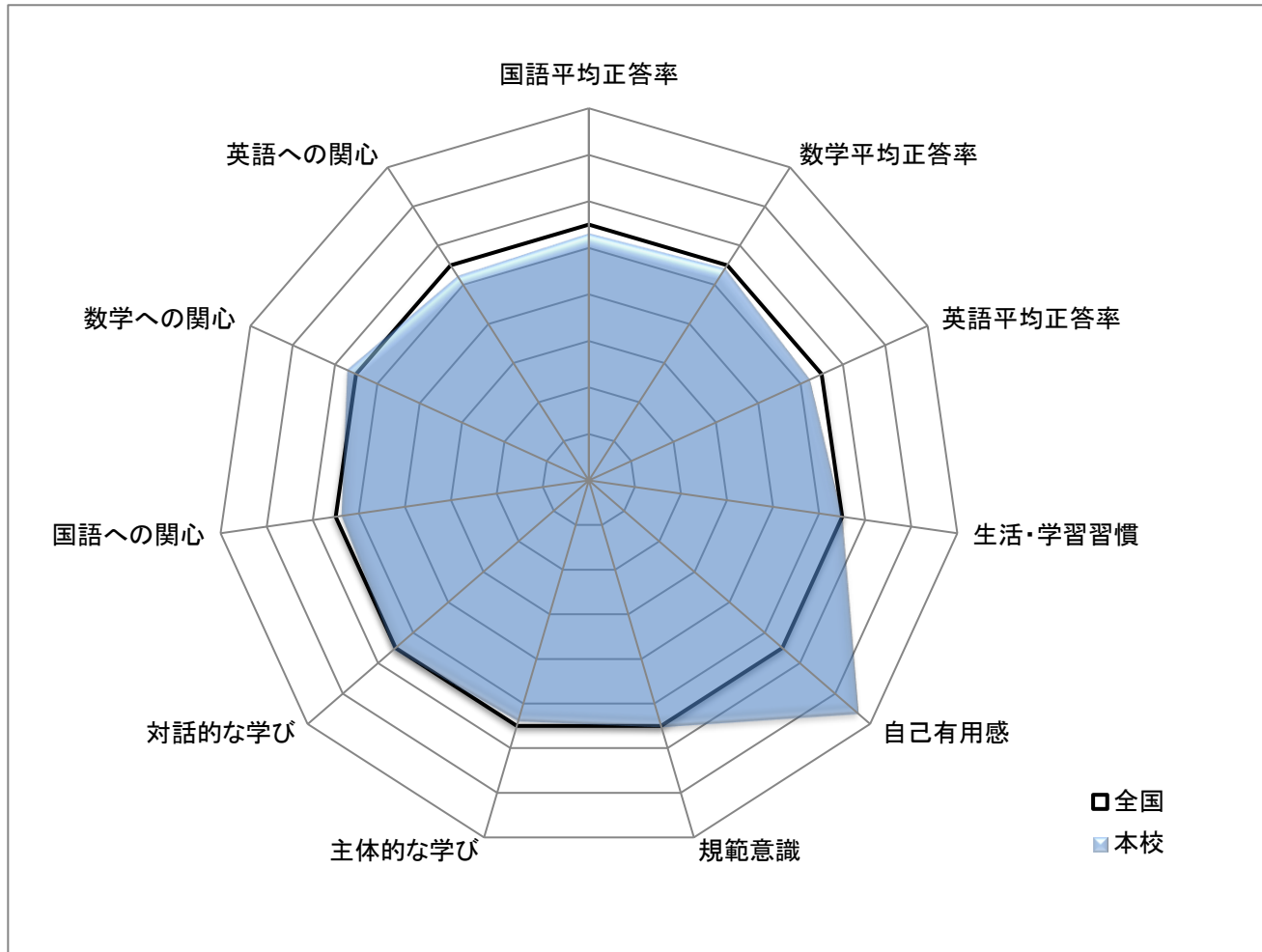


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

3教科ともに全国平均正答率をわずかに下回っている。  
 【国語】「効果的な話し方の工夫」「資料から引用して書く」について肯定的な回答が比較的少ない。  
 【数学】関心が最も高くなっており、正答率も全国平均の98%となっている。高い関心が得点力に結び付き始めていることがわかる。  
 【英語】「英語の勉強が好き」について肯定的な回答が43.8%と3教科で最も低くなっている。全国平均に対する割合も3教科で一番低い。

《授業改善のポイント》

【国語】個々の生徒の状況を把握し苦手な生徒に対し、興味関心を高めながらある程度まとまりのある文章を書く機会を組み込み、条件を与えて論点を分かりやすく説明したり、文章にまとめる指導をする。  
 【数学】問題演習に多く取り組み、基礎基本の定着を図るだけでなく、その上で課題を解く過程に重きを置いて指導に当たり、課題解決の学力がつくよう指導する。  
 【英語】英語への学習意欲を高めながら、語彙力の向上に加え、文法の理解を対話の中でも意識し、学び教えられるよう時間を多く取り入れ効率よく定着させる。

《チャートの特徴》

本校生徒の自己有用感が全国平均よりも著しく高いことがわかる(比143%)。教育活動の様々な場面で、全ての教師が生徒のよいところを見つけることに注力し、肯定的に評価することを常に心がけている成果が現れている。また、学校行事や学級活動のなかで他の生徒から肯定的評価を伝える活動を行っていることが、集団のなかでの有用感向上につながっていると考えられる。3教科の正答率が全国平均に近づいてきた。来年度は平均を超えるよう右の改善策に注力していく。

《家庭・地域への働きかけ》

本校の現状及び課題について、三者面談や保護者会、学校だよりなどを通じて認識してもらい、家庭学習の大切さを理解させ、学習時間の増加や、学習環境の改善などを呼びかけ、定着を図る。